

奈良県観光戦略本部会議
中部エリア、南部・東部エリア部会（第1回）
議事概要

日 時：令和6年6月12日（水） 13:00～15:40
場 所：奥大和移住定住交流センター「engawa」（奈良県橿原総合庁舎 別館）
※一部オンライン参加

出席者：江口英一委員（オンライン参加）、高野雅臣委員、椿本久志委員、野沢弘樹委員、
畠中亜弥子委員（オンライン参加）、平井宗助委員、吉田佳代委員（オンライン
参加）、吉本幸史委員（オンライン参加）[五十音順]

議事概要：

- 事務局より、「奈良県観光戦略本部について」、「観光地域づくりについて」及び「第一回本部会議の主な意見について」説明（別添資料③、④参照）

【委員意見】

- ・ 旅マエの旅行者に届くように、オンライン・トラベル・エージェント（OTA）の予約サイトに掲載する体験型コンテンツを増やすべき。
- ・ グローバルホテルブランドが抱える多くの会員を取り込めるように、ホテルと連携して会員向けの体験型観光プログラムを提案してはどうか。
- ・ 奈良県の観光情報は非常に限られたものしか表に出ていない。情報を発信する内容を明確にして、発信力を強化する必要がある。
- ・ 少子高齢化の影響で、観光事業者の担い手や後継者の不足が深刻な課題となっており、知名度があるエリアでも旅館などの廃業が続いている。
- ・ 吉野山の重要なアクセスであるロープウェーは、日本で最も古く施設の老朽化も進んでいる。
- ・ 宿泊施設が体験型観光コンテンツやホテル発のツアーを販売する仕組みを構築・提供すれば、地域にお金が落ちる仕組みとなる。
- ・ ボランティアガイドや無償サービスなどの「おもてなし」を提供することは、持続可能な仕組みとは言えない。地域のアイデンティティやサービスに対してしっかりとお金を払っていただくようにすべき。
- ・ アクセスの不便さについては、移動に付加価値を乗せてコンテンツ化するなど見方を変え、移動そのものに価値があるようにする。
- ・ 観光は「非日常」、生活は「日常」であり、奈良県がこれから取り組もうとする観光地域づくりでは、「観光客の非日常」と「地域住民の日常」を同時に語っている。これはすごくいいことで、本質を押さえている。

- ・ 観光業に携わる担い手が不足しており、事業を展開したくても、従業員を確保することが困難な状況にある。
- ・ 「観光事業に関わりたい、お店を開きたい」という移住希望者の声は多いが、地域に物件が少なく、住宅の確保や空き家の改装費などがハードルとなって移住に至らない。
- ・ アクセスの不便さについては、Uber（ウーバー）のようなライドシェアの仕組みを検討する必要がある。
- ・ 地域の課題の一つとして、地域に対する自己肯定感が低く、何か新しいことをやることに冷めた感覚がある。
- ・ 体験への価値にお金を払う旅行者が増えているので、都会では体験できない田舎ならではの体験の価値提供に可能性を感じている。
- ・ 地域住民も暮らし続けていけるように、自然環境と調和し、オーバーツーリズムに至らないような最適な観光 GDP を目指す必要がある。
- ・ プロの通訳ガイドは、ハイシーズンはガイド人材が足りない状況であるため、担い手の育成が必要。また、プロの母国語ガイドを育成したが、ニーズを発掘する必要あり。

○ 今後の対応について

- ・ 今後は、本格的に各地域へと入り込み、それぞれの観光キーパーソンと県、外部専門人材による協業体制「観光地域づくりチーム」を構築する。
- ・ 観光地域づくりチームで、地域の現状や課題を整理した上で、地域が目指すビジョンを実現するための具体的な取組の議論を進める。
- ・ その際、各委員のコメントを共有し、必要に応じて個別委員への意見聴取も行うことで、取組の実効性を高める。
- ・ 観光地域カルテ・処方箋として、地域の現状や課題、取組等をまとめ、部会及び本部会議に報告する。

以上